

第165回 令和8年1月29日（木）

「知識の価値について。」

昔は博学であることに大きな価値がありました。自分の頭に多くの知識を詰め込んでいる人が「頭が良い」と言われました。

いま知識の価値観はA Iによって低下しています。逆に価値が高まっているのがアウトプットの手です。持っている知識（自分の頭の中であっても、A Iが回答した知識であっても）をどのように組み合わせて、どのように使うのか、さらに大切なのは創造されたものをどのように周りに伝えるのか。

文部科学省が提言している思考力・判断力・表現力がこれにあたります。

NotebookLM というA Iが出現しました。手書きのノートなどをインプットすると一問一答式の問題や解説スライド、ポッドキャストによる音声解説さらには動画による解説まで作ってくれます。

もう学校も教師もいなくなるという論調も見かけますが、このシステムが提供するのはあくまで知識と理解です。実際にその知識をどのように活用して、何を生み出し、誰にプレゼンテーションするのかまで教えてくれるわけではありません。

大学入試などの資格試験のためには自分の頭の中に知識を詰め込む必要がありますが、社会に出てからはむしろ知識を活用する能力が求められます。カスタマーに対しどのような価値を提供し、その良さをどうやって訴えていくのか、そのような力がないと生き残っていきなくなります。

学校や教育がなくなることは亡国を意味します。就学率が低く、識字率が上がらない国に共通しているのは治安の悪化です。治安が悪くなるのは外国人が増えることではなく、教育が十分受けられていない人が増えることに原因があると私は思います。

特に義務教育段階までの教育は人間形成の上で非常に大切です。そこで培った人間力は生涯自分を支えてくれます。それを土台として高校や大学でアウトプット能力に結び付けていくことになります。

A Iは人間に知識を補填してくれますが、失敗を指摘し、間違った方向性の修正はしてくれません。

教育や学校が規模の問題で縮小することはあり得ますが無くなることは絶対にはないですし、これはA Iに代替できるものではありません。人間を教育するということは未来の社会を作る大切な仕事です。

すぐに目に見える結果が出るわけではありませんが、国の秩序が維持されていることが教育の成果だと思います。

教員不足と言われています。大変な仕事であることは否定しませんが、医学と同じように社会に必要な不可欠な仕事です。教員を志望してみたいと思う人はいつでもお声がけください。若い力を待っています。